

平成26年度 海外派遣教員を励ます会

平成26年3月1日（土）に上記の会が、岡山アークホテル1Fレストラン「ラ・ペーシユ」で開かれました。岡山駅の近くで、便利が良く、貸し切りでも良心的な料金のため、本会の行事としておなじみの会場でした。参加者は36人で、今回派遣される6人の内5人が参加されました。それでは、以下に会の様子をお知らせいたします。



春日二郎校長は、岡山市立操南中学校からパース日本人学校に校長として派遣されます。2週間後の15日には、現地に出発されます。校長の引継ぎで、隣接のインターナショナル校との敷地問題や、入学資格問題、カリキュラムの新たな作成など、難問が山積していると聞かされたそうです。パース日本人学校は、児童生徒数50人程度、派遣6人、現地採用6人で運営されていて、その舵取りをがんばって、3年後にはいい報告をしたいとお話されました。



外園太助先生は、倉敷市立本庄小学校から上海日本人学校に派遣されます。先生は、鹿児島で6年間教員をして、奥さんの岡山にやってきたそうです。今回、念願の海外派遣が決まり、とてもうれしかったそうです。先生の自慢は、食欲をなくしたことがないということで、バイタリティーが溢れています。岡山や倉敷のために、恩返しができるように、しっかり修行してきたいとお話されました。また、奥様からは、この会の皆さんの表情が明るく、派遣が楽しみにになりましたとお話がありました。



守安真好先生は、倉敷市立福田南中学校からメルボルン日本人学校に派遣されます。今日は、子供会の行事で奥様と3人のお子様は残念ながら来られませんでした。でも、オーストラリアでカンガルーやコアラに会えると楽しみにしているそうです。若い時に海外派遣の試験を受けたことがあり、今回は2度目の挑戦で合格し、大変喜んでいるということでした。何にでもチャレンジして、3年後はお土産をたくさん持って帰って、子どもたちに返していきたいと話されました。



山本健太郎先生は、岡山市立江西小学校からニュージーダー日本人学校に派遣されます。津山の藤原先生が、先輩として、現地のことをいろいろアドバイスしてくれていて、大変感謝しているということでした。児童生徒数50人ほどの学校で、すでに3年生の担任が決まっているそうです。ニューヨークには30分くらいで行ける立地で、ヤンキースに入団したマー君と共に、日本を代表してがんばりたいと話されました。また、奥様からは、家族の絆を大切に、食事など自分でできることは、しっかりサポートしたいと話がありました。



小坂建太先生は、岡山市立西大寺中学校からヨハネスブルグ日本人学校に派遣されます。初任校が9年を経過し、ちょうど転勤の時期で、友人からたまたまナイロビに赴任したと連絡があり、派遣を希望することになったそうです。それで、同じくアフリカに行くことになり、大変喜んだそうです。ちょうど、愛唱歌も「風に立つライオン」というさだまさしの歌だそうです。現地では、日本のことを好きになってもらえるようにがんばりたいとのことでした。また、奥様からは、T2として低学年の支援に入る予定であること、お子さんには、肌の色などを超えて人としてつきあえる、視野の広い人間になってほしいと話がありました。

鳥居恭治会長



今日は、5組の皆様、この度の派遣おめでとうございます。もうお一人の岡輝中学校からニューヨーク日本人学校に派遣されます徳弘誠也先生は、教え子の結婚式に参加されるため残念ながらご欠席です。皆さんは、船便の荷造りなど、忙しい毎日をお過ごしのことでしょう。岡山県代表として、元気に3年間活躍されることをお祈りしています。本会も、皆様から教材や情報などについての依頼がありましたら、全力でバックアップしていきたいと思えます。

橋本拓治顧問



私は、ブカレスト日本人学校に派遣されていきました。その当時は、医療事情が悪い国でした。文部省の試験で、どこへも行きますか、国によっては考えますを選ぶようになっていますが、子どもが小さかったので後者を選びました。しかし、よく考えたら、海外に子どもを連れていく保護者みんなの不安であり、その子どもを教育する自分が、それを避けるようではいけないと思い、ボールペンだったので二重線で訂正しました。面接の時にそのことを質問され、結局医療事情の悪いルーマニアに派遣されたのです。皆さんも、そこにいる子ども達のために頑張ってきて下さい。現地では、たくさんの貴重な経験をされることでしょう。しかし、経験しただけでは成長はありません。経験したことをしっかりとらえて考え身につけていくことが大切です。最後に、家族の健康に気をつけて活躍して欲しいと思えます。

森崎岩之助顧問



私は、この派遣制度が始まった頃に教育委員会の学事課長をしていて、それ以来ずっとこの会に関わってきました。当時は、文部省の西日本地区の採用試験に面接官として呼ばれ、岡山県以外の候補者を面接しました。中には、観光目的の安易な考えの独身女性も見られ、そのような人がいない岡山県の教員を頼もしく思いました。皆さんの先輩方は、岡山県の国際理解教育の先頭に立って、引っ張ってこられました。皆さんも先輩に続いて活躍してほしいと願っています。

山本正参与



皆様のご活躍を祈念しまして乾杯しましょう。

私は、現在は環太平洋大学に勤務し、教職をめざす学生を教えています。今回派遣が決まった先生の家族の方は、どうしてこの国へと戸惑っていることでしょうか。しかし、それは運命なのです。積極的に受け入れて、楽しんできてください。現地では皆さんを、子ども達や保護者や同僚達が首を長くして待っています。それでは、皆



栗坂祐子副会長

閉会のあいさつをします。私は、校長の立場としては、優秀な先生を送り出すのは痛手です。私の場合は、夫を連れての派遣で、しかもベテランでしたから、まだまだ日本中で2人しかいないような存在でした。派遣期間が4年でしたが、例えば理科など気候の違いで教材を現地調達するのに苦労の連続でした。その不自由な環境だからこそ工夫してがんば

ってきたことが、今も生きていますと感じます。現地では、健康に気を付け、家族の絆を深めてきてください。また、現地の人、子どもたちやその保護者、教員仲間などの出会いを大切にしてください。きっと自分の世界が大きく広がることでしょう。そして、その国が大好きになると思います。帰国歓迎会では、楽しい話を聞かせてくれることを期待しています。そして皆様も、帰国されましたら、その海外での成果を岡山県の国際理解教育のために寄与していただきたいと思います。

